

(配付資料)

平成28年度 公民館「地域のつながりづくり」実証プログラム事業 事業報告会

「竹田喜之助ものがたり 紙芝居制作」

竹田喜之助ものがたり紙芝居制作実行委員会（瀬戸内市中央公民館）

1 事業のねらい

- (1) 喜之助フェスティバルを開催する「人形劇のまち瀬戸内市」。今年度公民館敷地内に市立図書館が開館し、公民館とのさらなるつながりが必要と考えられるため、喜之助の紙芝居づくりを通じて図書館とのつながりをますます密にしたい。
- (2) それぞれに活動している人形劇に関わる各団体（竹田喜之助顕彰会、アマチュア人形劇団協議会、読書ボランティアグループ、学校司書の会など）が協働学習・連携できる機会を作りたい。
- (3) 紙芝居を制作・上演することでその成果を発表し、広く郷土の偉人・竹田喜之助の業績を伝承するとともに地域への誇りと郷土愛につながる事業としたい。



2 工夫点

- (1) 喜之助について学ぶ「喜之助マイスター養成講座」を開講する。実行委員、喜之助さんの直弟子鈴木友子氏などを講師に迎え、広く市民とともに郷土の偉人について学ぶ機会とする。
- (2) 講座開催にあたり人形劇に関する各種団体・読書ボランティアグループ等に声かけし、各団体が集い、学び、協働する機会づくりをし、その成果として紙芝居「喜之助ものがたり」を制作する。
- (3) 市内在住の水彩画家の全面協力のもと、紙芝居の絵柄は子どもたちにも受け入れやすいものとする。
- (4) 舞台なしでも上演でき、場を選ばず、比較的手軽に使える利点があり、人形劇の導入作品としても使えるため、人形劇ではなく、あえて「紙芝居」を作成する。
- (5) 完成した紙芝居は、読書ボランティアグループ、学校司書グループ、学校図書委員などを通し、公民館をはじめ図書館、市内学校、高齢者施設等で活用する。読み方の講習会などで各団体が集い、学ぶ機会づくりをする。

3 実行委員会の組織・構成

竹田喜之助顕彰会、アマチュア人形劇団協議会、読書ボランティアグループ、学校司書の会

4 取組内容

- (1) 喜之助マイスター養成講座を開講し、喜之助についての学習を深める。
- (2) 紙芝居の脚本づくり及び作画作業を実行委員とともに進めていく。
- (3) 紙芝居上演のための読み方の研修会並びに上演環境の整備を行い、上演の場を広げていく。

5 実施状況

- (1) 「喜之助マイスター養成講座」を4回シリーズで開講。





鈴木友子氏、顕彰会会長等を講師に迎え、喜之助さんの生い立ちから人形劇の道へ進むようになった経緯やその生涯について学んだ。

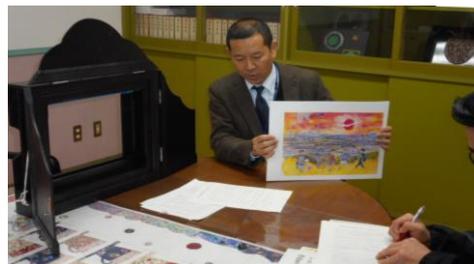
この講座へは、実行委員を中心に市内外から24名が参加。小学生の時人形劇クラブに所属していた高校生から、93歳の方までと幅広い年齢層の方が喜之助さんの偉業について学ぶ機会となった。

(2) 講座ののち、修了生・実行委員らで、学習を基に紙芝居のコマ絵の文章、内容、構成について調整を重ね作成に取り組んだ。

コマ絵は講座に参加の市内の画家に依頼し、講座でのイメージから制作。実行委員と繰り返し協議しながらすすめていった。

市内在住の画伯廣畑一男先生は元小学校長で93歳。昨年末、きめ細やかで色鮮やか、そして力強いコマ絵13枚が仕上げられた。

(3) 完成した紙芝居の読み方の学習会を、学校司書の会や図書館読書ボランティアグループを対象に行った。今後は学校司書・図書委員を通じて、市内学校で活用したり、図書巡回車に載せて市内の高齢者施設などの場で活用するなど、幅広い年齢層に向け発表の場を広げることになっている。



読み方の講習会の様子↑

ここは、抜きながら
ゆっくりと読みます。



6 事業の成果と課題

(1) これまで公民館では、定期的に人形劇について学ぶ講座は開講していたものの、竹田喜之助について学習する事業はなかった。しかし今回は、「喜之助」にスポットを当て、喜之助を学ぶ講座ということで、顕彰会会長、図書館学芸員が、講師になったり、ある時は受講生になったりとお互いの知識を伝え、学び合うことができた。

講座では、糸操りのしくみについても教わったり、実際に糸操りに挑戦したり、また、人形劇を鑑賞する内容も盛り込み、参加者同士も交流を深めることができた。

(2) 講座終了後のアンケートで参加者からは

「喜之助さんについて知ることができ、貴重な学習ができた。」

「今までよく知らなかった人間としての喜之助にとっても心惹かれた。」

などの感想が聞かれ、郷土の偉人の偉業を再認識できる機会となった。

(3) 紙芝居づくりを目的に各団体が集い、学び、目的に向かって協働する機会を得ることができた。

(4) 完成した紙芝居は、郷土の偉人についての功績や感動的な生涯を伝えることのできる力作となり、その偉業を再認識することで、地域への誇りと郷土愛につながる事業となった。

今後、市内の子どもたちや、市内外から集まる喜之助フェスティバルのボランティアスタッフ等に向けて紙芝居を上演することで、喜之助の偉業を後世に伝承していくことができると期待している。

(5) 紙芝居の完成が12月になったため、各所での活用はこれから。今回の事業でできたネットワークを生かしながら、図書館スタッフ、読書ボランティアグループや学校図書委員などとさらに有効な活用方法を検討していく必要がある。



↑紙芝居お披露目会の様子
この後子どもたちへ…